

第50回黒部川土砂管理協議会

●開催要件

○開催日時 令和3年5月26日（水） 13：30～15：21

○会場 黒部市生涯学習文化スクエア「ぷらっと」1F 大ホール

○出席者

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| ・大野 久芳 黒部市長 | ・堀口 正 富山県農林水産部部長 |
| ・笹島 春人 入善町長 | ・市井 昌彦 富山県土木部次長 |
| ・笹原 靖直 朝日町長 | ・藤井 俊成 関西電力(株)北陸支社長 |
| ・四ツ嶽 誠 富山森林管理署次長 | ・新井田 浩 北陸地方整備局河川部長（座長） |
| ・横井 三知貴 富山県
生活環境文化部次長 | |

事務局 北陸地方整備局河川部、関西電力(株)水力事業本部

●議 事

（１）報告事項

令和2年度環境調査計画に基づく調査結果の報告

（２）議 題

- ①令和3年度連携排砂計画（案）について
- ②令和3年度連携排砂に伴う環境調査計画（案）について
- ③黒部川連携排砂に関連した今後の取組（案）
- ④令和3年度連携排砂計画（案）及び連携排砂に伴う環境調査計画（案）等に関する関係団体からの意見に対する対応（案）

（参考）第54回黒部川ダム排砂評価委員会評価等について

（３）その他

座長冒頭挨拶

座 長

開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい中、当協議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

また、日頃から国土交通行政、とりわけ河川行政の推進に当たりましてご理解とご協力を賜っておりますことを、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

本協議会は、ご案内のとおり、黒部川の出し平ダム、宇奈月ダムの円滑な排砂及び適切な黒部川流域の土砂管理などに関し関係機関の協議調整を図ることを目的に、平成10年に発足し、毎年排砂前と排砂後の年2回実施をしております。

昨年度は、より自然に近い土砂動態を目指して、宇奈月ダムの先行操作を初めて実施し、一定の効果をを得ることができました。今回は、昨年度の成果も踏まえつつ、令和3年度の連携排砂計画（案）や環境調査計画（案）などについてご意見を賜りたいと考えております。

また、排砂評価委員会のほうから今後の取組に関するご提言もいただいておりますので、そちらのほうも併せてご紹介をさせていただきたいと思っております。

本日は限られた時間ではございますが、委員の皆様方からの忌憚のないご意見をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(1) 報告事項

令和2年度環境調査計画に基づく調査結果の報告

座 長

ありがとうございました。

それでは、ただいまの評価委員会からの評価を含めて、この深海調査についてのご質問、ご意見等があれば改めてお願いいたします。

どうぞ。

A委員

今、最後に説明のありました参考資料1の1)、2)ですが、こういう意見を付されたことについて、海面漁業関係者から特別な意見がなかったのかどうか確認したいと思います。

座 長

事務局のほう、いかがでしょうか。

事務局

ご意見ありがとうございます。

このような評価結果をいただいたということは、併せて漁業者の方々にもご説明させていただいております。その場でいただいたご意見としましては、当然、もともと関心がある内容に関して、影響がないということに対して単純に納得したということは、なかなか意見としていただくことはできておりません。また環境調査計画の中でもご説明させていただくんですけれども、そのようなご説明をさせていただいた中で、調査の継続という要望もいただいております。この評価委員会の評価を受けまして、実施機関として、影響が見られず同一調査の必要性はないということは受け止めておりますけれども、そういった要望というのは十分聞いた上で今後の取組も考えたいと、そのように考えております。

A委員

排砂評価委員会では、「学術的に見て」ということで継続の必要性はないとおっしゃっておりますが、恐らく結論づけた後、多分現時点においては、海面漁業の方々には納得されないと思うのですよ。したがって、排砂評価委員会は継続の必要性はないというものの、これに対する受け止め方というのは、私としてもやや納得できないなという感じがするのですが、必要性はないと言われておりますから、これは調査しないということですか。

座 長

これは後ほど環境調査計画のほうでまたご説明いただけるということでよろしかったですか。

A委員

分かりました。

事務局

はい。環境調査計画の中でどのような考えかというところをご説明させていただきます。

座 長

他にございませんでしょうか。

〔質疑なし〕

座 長

ひとまずよろしいでしょうかね。最後にまた全体を通してご意見をお伺いしたいと思います。

(2) 議題

- ①令和3年度連携排砂計画（案）について
- ②令和3年度連携排砂に伴う環境調査計画（案）について
- ③黒部川連携排砂に関連した今後の取組（案）
- ④令和3年度連携排砂計画（案）及び連携排砂に伴う環境調査計画（案）等に関する関係団体からの意見に対する対応（案）

座 長

どうもありがとうございました。

説明が大分多くありましたけれども、以上、①から④の議題の項目につきまして、どこからでも構いませんので、ご質問、ご意見等があればお願いいたします。

どうぞ。

B委員

2番の環境調査の計画ですけれども、各関係団体の要望等というのは全てクリアしているのでしょうか。それとも、もし言われた中で、今回はクリアできないということがあれば、この機会に聞かせていただきたいと思っています。

あわせて、4番にも出てくる各種団体等々の意見、ご存じのように朝日町にも漁業組合が2つあります。今回私どもに直談判に来られまして、現場の声がしっかりと段階を踏まえてこの土砂管理協議会に上がってきていないと厳しい口調で言われております。上がってきたデータを基にこういった協議会を開いているわけでありますので、そういった観点から、きちっと検証していただきたいなと思っております。

この表の中にもありますように、現場の方々と関係団体のしっかりとした信頼関係を構築しなければいけないということで、私も何年か前にも申し上げた、例えば海が濁っていればすぐ現場に駆けつけて、漁業関係者に寄り添うような形で、現場を見て、そして現場と一緒に頑張って対応していくということを提案して、一時期やっていただいたときには漁業関係者の方は非常に喜んでいただいていたことがあります。大事なことは、進めることにしても、現場の人たちの意見を真摯にという言葉は使っていますが、寄り添う形でやっていかないと大変なことになるなと思っておりますので、その2点併せてお伺いしたいと思います。

座 長

どうもありがとうございます。

1点目の漁業関係者等、関係者の調査のご要望等はクリアしているのかということについて、まず事務局のほうからお願いいたします。

事務局

お答えさせていただきます。

資料－2の中でご説明したように、深海調査の継続であったり、地点の追加であったり、そういったご要望をいただいたところは反映した計画であると考えております。ただ、個別の内容に関しましては、我々の思いと漁業者の方々の要望するところが完全に合致しているかという、これからコミュニケーションを丁寧にとっていかないといけないかなと考えております。その中で、おっしゃっていただいたとおり、現場を見てほしいとかという声もいただいておりますので、そういうことは、それこそしっかりと対応していきたいと考えているところでございます。

座 長

具体的に反映されていない項目、先ほど説明のあった関係団体等からの意見と見解みたいなのところにも幾つか反映されていない部分が入っていたかと思えますけれども、そういうことで、反映できる部分は極力反映したということかと思えます。

それと、現場の声が上がっていないというお話もありましたけれども、確かに今回の関係団体からの意見と対応については、個別の漁協さんとかではなくて関係団体ということで整理がされていますけれども、その辺の経緯とか実態について事務局からご説明いただけますでしょうか。

事務局

従来この資料に関する意見をいただくときには、海面の漁業団体の方々の意見としては、県漁連さんに取りまとめていただいて出していただくという方法を取っております。

事務局

補足させていただきます。

今回の計画に当たりましては、5月12日に朝日町を含む入善、泊、黒部、魚津まで含めた単協さんに全員集まっていただきまして説明会を実施させていただいています。その中で意見をいただきました。先ほど言いました底質調査であったり、追加地点の話もその場で出たものでございます。

ペーパーのまとめ方として、それを県漁連さんがまとめて我々に提出していただきまし

たので、各単協含めて、関係する全て漁業者の代表者の方に出席していただいた説明会を開催してこの資料がまとまっているということでございます。

座 長

どうもありがとうございます。

どうぞ。

B委員

確認ですが、県漁連でまとめておるということで、こちらからは誰か1人でも2人でも現場に立ち会っていないということですよ。今のこの進め方、声を上げてくる中で、県漁連でまとめていただいた、その県漁連の会合等あるいは意見聴取の場には関係者は行っていないということですね。

事務局

5月12日説明会の意見聴取の場にはこの事務局全員が出席しています。

B委員

そうですか。

事務局

はい。

B委員

そういった中でやはり、議事録等があると思うのですが、私が直接聞くのは、こういった場に反映されていないということの不信感を持っておりますので、そこらあたりまたきちっと対応していただきたいと思っております。

いずれにしても、私ども町のことを言って申し訳ありませんが、町としても若手漁業者の育成ということで、今、力を注いでいるところで、そういった経緯の中でも、今後やはり漁業に光を当てていきたいと思っておりますので、ここらあたりまた一層真摯に取り組んでいただきたいと思っています。

あわせて、昨年度から取り組んでいただいている藻場の保全、新たに取り組まれましたけど、それに関しては私も非常にいいことだなと評価をしておりますので、そういったことも併せながらしっかりと取り組んでいただきたいと思っています。

私からは以上です。

座 長

どうもありがとうございます。

そうしましたら、県漁連さんへの今日のご意見のフィードバックなんかも含めて、今後極力といいますか現場のほうと寄り添って、その辺ご意見、ご要望なんかもお聞きしながら引き続き進めていくということによろしいでしょうかね、事務局のほう。

〔事務局うなずく〕

ありがとうございます。

どうぞ。

C委員

関係団体からのいろんな意見ということなのですが、これは例年に比べて件数が少ないように思います。これまでも幾つもの要望、意見が出てきておるはずなので、そういったものについて、これはクリアされて少なくなっておるのか。ややもすると、もう言っても駄目だから諦めたという形で少ないとなるとこれは大変なことなので、今、B委員もおっしゃったように、まとめて1つということではなくて、いろんな角度からの意見もあろうかと思えますから、そういったものをしっかりと出して議論をしていただくということが大切なのではないかなと思っております。

そういった中で、今回も藻場造成などにもご尽力いただいておりますということについては漁業者の皆さん方も喜んでおられるわけでありまして、今後もいろんな角度から、国交省にこだわらずに農水省の関係も併せて、国が一体となって藻場造成に取り組んでいただければありがたいと思えますし、また、昨年大きな課題であった農業団体からのいろんな情報提供ということについても一定のクリアがされてきたのではないかなと思えます。

ただ、そういう中でも、やはり農家の皆さん方にとっては、断水する期間が短ければ短いほどいいわけでありますので、そういった情報さえ流せばいつまでもやれるということではないということをまず考えていただきたいということ、これは河川などの防災上の問題もありますので、最小限の期間の断水ということで、そういったことを周知していただければありがたいと思っています。

座 長

どうもありがとうございます。

藻場造成のお話と、あと農業者の方への断水の、いつまでも流してもいいんじゃないよと。そのところについて事務局のほうからコメントがありましたらお願いします。

事務局

事務局でございます。

1つ目の藻場、漁場の保全策につきましては評価をいただいておりますので、これについては昨年度から、先ほども資料がありましたように、一段進めてより発展させていこうと考えております。これにつきましては、富山県の水産研究所さん、それから大学の先生方のお知恵もいただきながら進めていきたいと考えております。もちろん、これを進めていくに当たっては、漁業関係者さんのご協力も得ながら進めていきたいと思っております。

あと、2点目の農業団体関係のご意見で、いわゆる排砂の実施の体制をツイッターでご連絡する、あるいは、今年度からの試行的な取組でありますけれども、数日先の雨の状況をとらまえて、排砂の可能性が高いのか低いのかというのを、精度の問題もありますが思い切ってやっていくということで、情報提供させていただくという取組を始めさせていただきます。ただ、今のご質問とかご意見につきましては、とはいっても、できるだけ断水の時間を短くしてほしいというご指摘かと思えます。こちらについては、先ほどの意見に対する回答でも述べさせていただいておりますけれども、洪水に対して、洪水調節の時間もあつたりするところもありますので、その中でのお話にはなりますが、連携排砂の実施の時間が適切なものになるように努力してまいりたいと考えております。

座 長

あと、最初にあった関係団体の件数が少ないのではないかということについては、B委員さんからもありました現場の声が上がっていないということとも関連する事柄かと思えますので、県漁連さん等とのフィードバック、意見交換をするようにして、今後どういうふうにするのかというのをまた相談させていただきたいなと思えます。

C委員

もう1点お願いしたいのですが、近年、河道掘削であつたり樹木伐採を進めていただいて、相当、黒部川河川敷はきれいになってきております。本当に感謝をしているところでありますけれども、ただ、樹木伐採をしたそのものが河川敷の中で野積みをされていくと、先般のように、少し大きな雨が降ると流木となって入善漁港あたり航行ができなくなるということが起きております。ある程度の高台でも樹木を管理していただくような方法を今後ぜひお願いしたいと思っています。

座 長

ありがとうございます。

事務局のほうからコメントをお願いします。

事務局

事務局でございます。

ご指摘のまず河道内樹木に関しましては、伐採した後の樹木については、基本的には川の水がすぐ付くようなところには置いておりません。ただ、処理先の関係上、霞堤のほうの、いわゆる土地とつながっているところですね、そういった高いところで一時的な工事上の仮置きはいたしますが、基本的には川の低いところには置かない取組をしております。また、それ以外にも、川の中にある流木につきましては毎年処理もさせていただいております。ただ、こちらにつきましても、漁業関係者の方々含めて、流木は早く処理してほしいというご意見がありますので、引き続き努力していきたいと思っています。

座 長

よろしいでしょうか。

ほかにございますでしょうか。

どうぞ。

D委員

2点お聞きしたいのですけれども、まず1点目ですが、資料－1（別冊）の4ページについてです。

2ダム間土砂移動操作について、宇奈月ダム直下のSS濃度のシミュレーションを行っておりますが、もし可能でしたら、実測定も行うことでシミュレーションの精度を検証したらどうかと考えるのですが、いかがでしょうか。

もう1点が環境調査についてですが、海域底質での硬度を新たに調査することとしたその理由を教えてくださいと思います。

以上2点お願いします。

座 長

ありがとうございました。

では、1点目の2ダム間の操作に関しての濁度測定について事務局のほうからお願いします。

事務局

ありがとうございます。

まず1点目でございますが、まず2ダム間土砂移動操作自体が、短期的、集中的な雨の場合に限ってということになりますので、まずこれを実施するかどうかというところがございます。ご質問としては、もし仮に実施したときに、そこで測定したものとこのシミュ

レーションが合っているかどうかというところかと思います。

まず、このシミュレーション自体、外力条件自体が一番厳しめの想定の中を出していますので、仮に2ダム間土砂移動操作をしたとするならば、そこで出た実測値と、その流量相当のシミュレーションも併せた計算値とどうなのか、という様な見方は1つあるかなと思います。こちらについては計算精度を高めるべきではないかというご指摘かと思いますので、もし2ダム間土砂移動操作をやる場合には、そのような形で計算精度を上げるために確認はしたいと思います。

座 長

濁度調査はするということでもいいんですね。

事務局

はい、します。

座 長

ということですね。

じゃ、2点目の硬度調査を行うとした経緯についてよろしくお願いします。

事務局

硬度という項目を追加した理由としましては、海底の魚の餌になるような底生動物の生息環境に影響するであろう硬さ、そういった指標というのは漁業者の方々も関心を持っておられるところだと。今まで排砂実施機関が行っている調査として、底生動物の調査でありますとか粒度組成、そういったところは当然調査していたのですけれども、一番分かりやすい硬さというところも数値で示せるようなことを実施してはどうかというご助言をいただきまして今回追加するものとなっております。

D委員

分かりました。ありがとうございました。

座 長

ほかに。どうぞ。

E委員

土木部です。こちらも2ダム間土砂移動操作の件ですけれど、昨年度の6月14、15日のときには短期集中型の降雨となって、そのために出し平ダムに堆積したということで、これを踏まえて今年度は、その軽減のための対策として、排砂機関で2ダム間土砂移動操作を試行されるということで、より自然に近い土砂動態に向けての排砂方法ということで、

本協議会においては負荷が軽減されることを求めているということなものですから、その流れに沿ったものということで受け止めておるところでございます。

ただ、こちらの資料につきまして、この2ダム間土砂移動操作については、「宇奈月ダムの排砂ゲートは閉じたまま、出し平ダムの土砂を可能な範囲」と定性的な表現で記載されておるのですが、このことについて、例えば、移動の土砂量であるとか、時間であるとか、やるときの定量的な目標とか目安というものを何か事務局のほうでお持ちなのかどうか教えていただければと思います。

座 長

ありがとうございました。事務局のほう、いかがでしょうか。

事務局

ありがとうございます。ご指摘のところは2ダム間土砂移動操作の部分についてかと思えますけれども、まず基本的には流入量が続くかどうかというのが1つの尺度かと考えております。昨年度は、6月14、15日のお話を例に挙げられたかと思えますけれども、こちらのほうも途中で連携排砂は実施しなかったのですが、どういう考え方かという、出し平ダム上流の流入量が、いわゆる排砂を実施できるような量が続かないということが予見されたために中止しました。今回の2ダム間土砂移動操作はそれと同じような事態を想定しておりますので、流入量が続くのであればこの2ダム間土砂移動操作というのは行わずに、先行操作にはなりますが、従来の連携排砂を行う形になります。6月14、15日のように、雨の降り方とかで流入量が続かないことが予見された場合には、宇奈月ダムの排砂ゲートを開けずに2ダム間土砂移動操作をする。そうなりますと、結局流入量が続かないわけですから、目標排砂量を全部移動させることが難しくなるので、量としては定性的なこういった形になるというものでございます。水が続く範囲の中で、可能な範囲で土砂を移動しておく。そうすることで、その後に来る雨に対しては、出し平ダムの土砂が減っていますので、全体の排砂の時間自体も短くなる可能性が出てくるということで、このような取組を短時間の雨が降るような事態の場合に限って行うということを考えているものでございます。

E委員

ちょっと質問の仕方が上手にできなくてごめんなさい。130 m³/sを下回ることが予見されるときに中止されますよと。だけど、昨年度の先行操作では中止しただけであって土砂移動はされていなかったことを、今回新たに、せっかく130 m³/sを下回ると言い

ながら、出し平ダムのほうにたまるので、それをちょっとでも緩和しようとしたという事は理解しておるのですが、そうした場合の出し平ダムから宇奈月ダムに落とすほうのゲート操作の目安というものが何かあるのでしょうかという意味でお尋ねしたのですが。

事務局

ありがとうございます。ご指摘のところはゲートの操作。

E委員

そうです。資料－１（別冊）の３ページの右の令和３年度というのが上と下を書いてありまして、下の上のところに「宇奈月ダムの排砂ゲートは閉じたまま、出し平ダムの土砂を可能な範囲移動」と赤字で記載してあるところが「可能な範囲」と定性的な書き方になっておるのですが、 $130\text{ m}^3/\text{s}$ を下回ってはおる流入量であるのですが、その範囲で、どれだけのゲート操作をやって下に送るかという。

事務局

失礼いたしました。まず $130\text{ m}^3/\text{s}$ というのは、中止基準に該当する数字かと思います。 $130\text{ m}^3/\text{s}$ を下回ったら、どちらにしても土砂はほとんど動かないんですね。なので、 $130\text{ m}^3/\text{s}$ 以上であれば目標排砂量の移動が可能になりますけれども、 $130\text{ m}^3/\text{s}$ を下回るような事態になれば土砂は動かないことが予見されますので、そうすると土砂は動かないと。あとは、どれぐらいの土砂の量までを出すのかといったところについては、流量、雨の降り方によって変わり得るので、その固定値という形で示すことは難しいと考えております。

座 長

ちょっとよろしいですかね。これは具体的には出し平ダムの操作になるので、関電さんにお聞きしたほうが良いのかもしれませんが、昨年度の中止をしたときについては、もう成立しないとなった途端にやめたとなって、恐らくもうゲートを閉めるというような方向で出し平ダムも操作になったと思うのですが、今年度については、そうなったとしても、すぐに機械的に閉めるということではなくて、出せる時間についてはゲートを開けておこうということだと思います。先ほど竹下所長のほうから $130\text{ m}^3/\text{s}$ を割り込んだらほとんど流れないのですというお話もありましたけれども、実際、出し平ダムのゲートの地点で、どの程度の流量までだったら土砂が移動して流れていくのかと。当然これまで操作してきた関電さんがお詳しいと思いますので、そこを見定めながら、 130 m^3

/sを下回っても流れている状態であればもう少し頑張ってみようとか、これ以上はもう無理だなと思えば閉めるとか、その辺は適宜ご判断をされて操作するという事かなと思いましたがけれども、そんなことでよろしいのでしょうかね、事務局、コメントがあれば。

事務局

ちょっと1点、この場で誤解となっているのではないかと思うところが、 $130\text{ m}^3/\text{s}$ を下回ればこの移動操作に伴う自然流下というのも終了します。そこは従来の自然流下の中止基準である $130\text{ m}^3/\text{s}$ というものを踏襲しております。その上で、想定で言えば、恐らく自然流下に入って本当は8時間とか9時間とかしたいところを2時間、3時間ぐらいで $130\text{ m}^3/\text{s}$ を下回ってしまう事態になることを想定していますので、そこまで粘ってやめるというのがこの操作の考えです。

座 長

私も誤解していました。すみません。ということで、 $130\text{ m}^3/\text{s}$ は変えずに時間をできるだけ延ばすということよろしいでしょうか。

E委員

はい。

座 長

ほかにありますか。

どうぞ。

C委員

1点教えていただきたいのですが、この2ダム間の操作の関係で、短期集中型降雨というのは何か特別な基準というものがあるのでしょうか。

座 長

事務局のほうから。

事務局

お答えします。

短期集中型降雨というのは、昨年度そうだったのですけれども、いわゆる雨が続かないということですね。なので、基本的には流入量で見ます。流入量ですと測定ができますので、ダムの上流からの流入量で見ますけれども、その流入量が少ないという事態はどういう事態かという、短期集中型で雨が長々続かないという場合はもう流入量がすぐ減ってしまいますので、そういうことを想定しています。何mmという基準ではなくて、あくまでも流

入量で見えております。

C委員

ありがとうございます。

座 長

よろしいですかね。

ほかにありますでしょうか。

A委員、どうぞ。

A委員

まず宇奈月ダムの先行操作については、まだ回数が浅いので、ぜひやっていただきたいと。また新たな調査結果が出るとしますので、ぜひこれは進めてほしいと思います。

次に、養浜と藻場、いわゆる漁場保全のことですが、それこそ排砂が始まった頃は藻場の話はあまりなかったのですね。ほとんど、出し平ダムから出せば土砂が流れて養浜すると、かなりダムの管理者が強く言っておられたんですよ。ところが、次第に漁業関係者からおかしいぞということで藻場の話も出てきたと思うのですが、藻場と養浜については何となく二律背反しそうですが、これは両立するものとして取り組んでいただきたいなと。今回の資料にはそのための検討をすると出ておりますが、これを一步前に進めて、内容を検討し実施することとしたいと、これくらいの姿勢をいただきたいなという思いであります。

最後に、今の状況ですと、排砂5万 m^3 、0から11万 m^3 とおっしゃっていますね。これは6月に入ったらどうなるか確かに分かりません。5万 m^3 ということになると、今までほとんどこんなに少ないのはなかったので、もしそうであれば、追加放流の際は思い切ってだーっと流してほしいと思うんですよ。大変恐縮ですけど、水は金なりです。しかしながら、こういうときこそ流していただいて河床の高さを下げると。それで海岸の近くには養浜するという思いでやっていただきたいなと。もし排砂量がもっと増えれば、これは考え方を変えてもらっても結構ですけど、今の状況だったら、私はこういうときこそやってもらわなきゃだと思っておりますが、以上、お答えいただければ。

座 長

1点目について私のほうからしたいと思いますが、これは前回か前々回もA委員さんからそういうお話があって、排砂をするからそれが浜につくという話ではないでしょうかというお話もいただいていたしまして、そこも含めてきちんと評価をして、当然、人工的な養浜

はやっていかなきゃいけないと国土交通省としても思っているんで、どの程度できるかというのはまたありますけれども、ダムの排砂がどの程度寄与しているのか、果たしてほとんど寄与していないのか、その辺の評価をまずはちゃんとやっていこうと考えています。

あと、目標排砂量の話については、現時点で事務局のほうから何かコメントはありますでしょうか。漁協さんとの関係とかもあって、難しいのか難しくないのかちょっとあるかとは思いますが。

事務局

出し平ダムの目標排砂量ということですので、私どものほうからお答えさせていただきます。

今、出し平ダムで排砂を行う目的というのは、貯水容量の確保というのが一義的にございます。ですから、この目標の設定の仕方というのも、1年間に堆積した土砂を排出するという考えです。その中で想定変動範囲というものを設けておりますけれども、そこで変動する中で、経年的に見て一定を保つというのが目的でございますので、この目標排砂量は確かに過去の数値から見ると小さいものですが、だからといって、さらに追加で出そうというところに対する意義というのは何なのかというのは、明確に定められるものではないのかなと思っています。

堆砂形状としまして、これまで出し平ダムで排砂を何回もやっていく中で、ある程度安定的な勾配になって毎年の堆積と排出を繰り返しておりますので、必ずしも出そうと思っても出せるものでもない、そのような状態にまで出し平ダムは至っております。

そういったことで、量のコントロールというのは、座長にも触れていただいたとおり、漁業者の方々の受け止めとかもございますので、現状、目標排砂量を恣意的に大小させるということは考えていないというのが現状の答えとなります。

A委員

今ね、あなたそうおっしゃったけど、この問題はずっと前から言われているんですよ。少ないときは追加放流、もっと増やさんとあかんと。けちけちするなまで言われているんですよ。私がこういう場にはいないとき。県議会議員として横で聞いていましたけど。あなたの答えは答えになっていませんよ、申し訳ないけれども。やっぱりね、あれだけ黒部川の河川が河床高になってしまって、このことから、追加放流できるときはぼーんとやって流さないと。そのことで漁業関係者に影響が出るってほとんどありません。そのことをやりながら、さっきも申し上げたでしょう。二律背反するものじゃなくて両立するものとし

て養浜と藻場はやっていくと。これを研究してくださいよ。

以上です。ありがとうございます。

座 長

確認なんですけど、結果として多く出るということはあるのでしょうか、それとももうこれ以上空けていると、洪水は続くんだけれども、多く流れちゃうから閉めちゃうみたいな、そういうことになっているのでしょうか。ちょっとそこはどうなのでしょう。

A委員

座長さん、すいませんけどね、追加放流というのはそういう極端なことにならないようにやるんですよ。

事務局

追加放流と言っているのは、土砂のことではなくて水のことでご意見をいただいているのでしょうか。

A委員

理解されていないのですか、追加放流というやり方を。申し訳ないけれども。追加放流というのは、排砂をして下流にたまったら困るから水を流してぐっと押し出すという、これが追加放流なんです。そこをもうちょっとご理解いただければと思います。今日はこの程度にしておきます。ありがとうございます。

座 長

私もよく理解しないままに申し訳ありません。その話は、先ほどの2ダム間のものも同じなんですけれども、たまっているものをできるだけ下流に流すという取組は引き続きやっていきたいと思いますので。すみませんでした。

A委員

ありがとうございました。

座 長

ほかにございますでしょうか。

どうぞ。

F委員

私のほうからは、主に漁業者、農業者の立場からということで、4点ほどお話をさせていただきます。

1点目は環境調査についてです。漁業者、県漁連さんなり入善漁協さんのほうからは、

漁場に堆積している浮泥の存在でご指摘があるかと思います。そういう漁業者の意見もありますことから、その意見も踏まえた調査をやっていただければなということで、今回は動画撮影もされるやに聞いておりますので、できるだけ結果なども分析をした上で漁業者の方に分かりやすい形でお示しをいただければなと思っておりますし、深海の底質調査についても、内容的には今後調整されるということなのですが、引き続きやっていくということで、県といたしましても、いろいろ協力させていただいておる関係もありますので、こういった場所だったり、調査内容だったり、漁業者の意見を吸い上げるような形で実施いただければなと思います。

2点目は、黒部市長さんからもお話がございましたとおり、宇奈月ダムの先行操作ということで、できるだけ自然に近い形で行うのがよいだろうということで進めていただいております。いろいろやっていることに対する分析評価もしながら、引き続きよりよい形でやっていければ、漁業者の納得といいますか理解も得られるのかなと思いますので、いろいろ検討も重ねた形でやっていただければなということでもあります。

3点目は、漁業振興のための環境整備ということで、藻場保全の取組などもご紹介をいただいております。県も引き続き協力したいと考えておりますので、そういった藻場の造成によって漁場環境がどう改善する、これも漁業者のために分かりやすくご説明をしていただきながら、こういった環境整備については継続して進めていただければなと思っております。

それから最後、4点目でございますけれども、河川の土砂の除去ということで、これまでも樹木伐採あるいは河道掘削ということで実施いただいておりますけれども、河川にはアユとかサクラマス等の重要な水産生物が生息しているということもございますので、そういった生息環境に配慮した取組なども今後続けていただければなと思います。

最後に、2月の土砂管理協議会でもちょっとお話をさせていただきましたが、農業者の方へ、事前のできるだけ早い段階で、連携通砂、排砂を行うかもしれないということで、精度も低いかもしれないけれども、試行的にツイッター等で流していただけるということでございますので、いろいろ農業者の方からも話を聞きますと、やっぱりそういうのをやっていただけると非常に助かるというようなお話もございますので、速やかな対応をしていただいて本当に感謝しております。引き続き、農業者もそうなのですが、漁業者の方も、こういう対応をいろいろ実施機関のほうでやっていただけるので満足しているということはないと思いますので、できるだけ農業者、漁業者の方に寄り添う形で、丁寧な説明だっ

たりをしていただくような形を取っていただけると県としても助かるなと思っておりますので、今後ともよろしく願いをいたします。

以上です。

座 長

ありがとうございます。

事務局のほうからコメントはありますでしょうか。

事務局

事務局でございます。

富山県の農林水産部の皆様には、県の水産研究所も含めて、日頃より大変ご協力いただきまして、ありがとうございます。

4点お話がありましたが、4点のうちの1点目は後ほど関西電力のほうから話がありますけれども、2点目の先行操作につきましては、より自然に近いということで、昨年引き続き試行をやる中で環境負荷の低減などに努めていきたいと思っております。

また、藻場の保全策などにつきましては、これも富山県の水産研究所さんにも大変ご協力いただいているところでございますが、水産研究所さんからのご助言等もいただきながら分析をして、それを漁業関係者様にもご説明をさせていただいて、取組も単年度で終わるというものではなくて、ある意味、息の長い取組かなと思っておりますので、こちらのほうも継続して取り組んでまいりたいと思います。

それから、河川の樹木伐採、掘削関係でございます。こちらについては、治水上の目的で、洪水に対して安全な河道をつくるために実施をしておりますけれども、これについても内水面漁協さんのご意見も聞きながら、アユ、サクラマスなどの生息環境に配慮した取組を続けてまいりたいと思います。

なお、先ほどツイッターのお話もありましたけれども、こちらについても土地改良区の方々等の説明に際しては、県の農林水産部の方々にも大変ご協力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

事務局

1点目の環境調査に関して、海域の浮泥に関するコメントをいただいたかと思っております。ここはコメントをいただいたとおりにかと思っております。今年度、動画撮影というのも追加いたします。これまで関連する調査データもございますので、より分かりやすい、そういった動画という素材も加えてこちらの考えを伝えさせていただいて先方の

ご意見も受け止めさせていただく、そのような丁寧なコミュニケーションを心がけたいと思っております。

座 長

ほかにありますでしょうか。

〔質疑なし〕

座 長

よろしいでしょうかね。

そうしましたら、ちょっと確認というか、まとめをさせていただければと思います。

議題①②③④とございましたけれども、特に前回、その前もそうだったかもしれませんが、漁協さんとか農業関係者の方々に対する、きちんと現場の理解と寄り添った対応を丁寧にやっていくという、これは引き続きの話であろうかと思っておりますけれども、そういうことを続けるということで、①から④については事務局の案のとおり進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔各委員うなずく〕

座 長

ありがとうございます。

そうしましたら、議題については原案のとおりということで進めさせていただきたいと思っております。

それと最後に、説明の中でも触れさせていただきましたけれども、議題ではないのですが、評価委員会から今後の取組に関する提言がございました。特に連携排砂に関する生き物の生息環境の話も含めた幅広い観点での評価、海の話も含めて、そういった評価を進めるとともに情報をちゃんと広報していくこと。あるいは、最後に触れられておりました漁業影響把握の困難性を踏まえた、これは気候変動の関係とかもあろうかと思っておりますけれども、広範な関係者による今後の取組の方向性等についても提言がされておりましたけれども、これらについて最後に何かコメントがあればお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

〔質疑なし〕

座 長

よろしいでしょうかね。特にないようでありますので、当協議会、また各実施機関におきましても、こういった提言も含めて、さらに充実した取組につながるよう努めてまいり

たいと考えております。

それでは、以上をもちまして今日の議事は終了とさせていただきたいと思います。

進行を事務局にお返しいたします。

●閉 会

司 会

長時間にわたりましてご熱心なご審議、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、第50回黒部川土砂管理協議会を閉会させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。